

## 純粹で真実なパンで祭りを

コリント人への手紙第一 5章 1-8節

### はじめに

久しぶりに『コリント人への手紙』からの説教となりました。クリスマスが終わってここ数週間の礼拝の説教では、教会について学んでいます。教会をどのように建て上げていくか、教会の使命は何かなどについて学んでいます。

今日の聖書箇所には、教会の「戒規」について書かれています。戒規とは、教会が、重大な罪を犯した信徒に対して行うものです。戒規にはいくつか種類があって、訓戒、職務停止、陪餐停止、職務剥奪、除名というものがあります。それらは、犯した罪の性質や程度によって判断されます。

戒規は、教会にとって欠かせないものです。私たち日本長老教会は、教会が本当の教会であることのしるしは、神の言葉を真摯に宣教することと聖礼典（洗礼と聖餐）を神のこころに従って執行すること、と考えています。つまり説教や伝道と洗礼や聖餐が行われている教会こそ、本当の教会であると考えているのです。しかし、長老教会の伝統の中には、キリストの教えに従って「戒規」が行われていることも、本当の教会のしるしであると考える教会もあります。

それほどに戒規は、教会にとって欠かせないものなのです。イエス様を信じて洗礼を受け、クリスチャンとなつても、私たちの中から罪がなくなることはありません。私たちの中には、天国に行くまで、あるいはイエス様が再び来られるまで罪が残り続けるのです。それゆえ、地上の教会にも、罪は残り続けるのです。ですから教会は、その罪を、中でも重大な罪をどう取り扱うかという問題と向き合わなければなりません。

教会では常に、「人を裁いてはいけない」「人を受け入れなければならない」「人を赦さなければならない」と語られるので、戒規が行われ難い傾向があります。しかし、戒規が行われないならば、教会全体に罪の影響が蔓延し、教会が腐敗していくことにもなりかねません。

今日は、コリント教会に起きた戒規にあたる問題と、それに対するパウロの考え方を学びたいと思います。

### 1. コリント教会の問題

コリント教会には、二つの問題がありました。一つは、教会の信徒の中に、「**異邦人の中にもないほどの不品行**」が行われていたことです。具体的には、「**父の妻を妻にしている者がいる**」という不品行です。父の妻を妻にしているというのは、自分の実の母を妻にしていると

いうことではないと思います。自分の父の再婚相手などを自分の妻としているとか、自分の義理の母を自分の妻としている、というものだと思います。いずれにしても、自分の内親を妻としてはならないというのは、旧約聖書のレビ記で禁じられているし（レビ記18：6-18）、ユダヤ人ではない異邦人の間でも、クリスチャンではない人たちの間でも禁じられていることでした。クリスチャンではない人たちの間でも見られない性的な罪が、教会の信徒の中に見られる、それがコリント教会の問題でした。

もう一つの問題は、コリント教会が、その問題を「悲しむ」ことなく、その重大な罪を犯している者を教会から「取り除く」ことなく、「誇り高ぶっている」ことです。コリント教会は、誇り高ぶっていました。自分たちの教会は、知恵がある、賜物も豊かにある、うまくいっている、成長していると思い込んでいました。しかしこりント教会は、自分たちの中にある罪の問題には無関心で、真剣に向き合うことなく、見て見ぬふりをしていたのです。

## 2. パウロの考え方

パウロは、コリント教会の中にある重大な罪を指摘し、その重大な罪と向き合うことなく、見て見ぬふりをしている教会の問題を指摘しているのです。

パウロは、コリント教会の不品行の罪を行っている信徒を、「**主イエスの御名によってすでにさばいた「主イエスの権能をもってサタンに引き渡した**」と言っています。パウロの考えは、コリント教会の重大な不品行の罪を行っている信徒を、教会はさばくべきだ、サタンに引き渡すべきだと言っています。つまり、聖餐の交わりから除き、教会の交わりから除くべきだと言うのです。教会の中から、教会の外へと追いやるべき、除名すべきだと言うのです。

なぜでしょうか。なぜパウロは、そんなに厳しく扱うのでしょうか。それは、5節にあるように、「**彼の肉が滅ぼされるため**」また「**彼の靈が主の日に救われるため**」です。ここでの「肉」というのは、体のことではなく、罪の性質のことです。パウロは、コリント教会の重大な不品行の罪を行っている信徒に戒規を行うべきだと言っていますが、その目的は、彼が滅ぼされるためではなく、彼の罪の性質が滅ぼされ、彼が悔い改めて神様のもとに立ち返り、やがて救われるようになるためです。戒規の目的は、その人の悔い改めと救いのためです。やがてその人が回復するためです。

その人から聖餐を取り上げ、教会から除名し、その人の救いを願うというのは、何か矛盾しているように思います。しかし、ルカの福音書に出てくる放蕩息子は、父から離れて罪の生活を楽しんだ後、苦しみを経験し、悔い改めて父のもとに帰ろうと決心しました。同じように、戒規を受けた人も、教会から離れた罪の生活の中で、虚しさと孤独と不安を感じ、教会の交わりや神様の愛の中で感じた平安と喜びを思い出し、やがて悔い改めて回復し、救われることを願って、戒規は行われるのです。ですから戒規を行なった教会は、戒規を受けた人の回復のために、祈り続けなければなりません。やがてその人が悔い改め、救われるようになります。

### 3. パウロの勧め

パウロは、6-8 節でコリント教会に対して、「パン種を取り除きなさい」と勧めています。ここでの「パン種」というのは、教会の信徒の中にある重大な罪のことです。

パウロは、教会からパン種を取り除くべき理由を二つ語っています。一つは、「**ほんのわずかなパン種が、粉のかたまり全体をふくらませる**」からです。教会の重大な罪をもし放任するなら、その罪は教会全体に蔓延し、教会全体を腐敗させることになるからです。

もう一つの理由は、「**過越の小羊キリストが、すでにほぶられたから**」です。イスラエルの民は、過越の祭というものを行います。昔、エジプトの奴隸であった時に、モーセを通して神様によって奴隸状態から救われて、新しい歩みが始まったことを記念して行なう祭です。

そこでは、過越の食事というものがあり、過越の小羊を食べ、一週間パン種を入れないパンを食べたのです。なぜ、過越の小羊を食べるのでしょうか。昔、イスラエルの民がエジプトから脱出する時、小羊をほぶり、その血を家の門柱に塗ることによって、神様の怒りと裁きから過ぎ越され、救われたからです。

イエス様は、私たちにとってまさに過越の小羊です。イエス様は、私たちの罪のために十字架に架かり、血を流してくださいました。イエス様を信じて洗礼を受け、聖餐にあずかる私たちは、イエス様の血によって、神様の怒りと裁きから救われ、過ぎ越されるのです。そして神様によって救われ、新しい歩みをすることができるのです。

過越の小羊とセットになるのが、パン種を入れないパンです。過越の小羊につり合うのは、パン種を入れないパンです。教会は、私たちのために十字架に架かって血を流してくださいました過越の小羊を与えられました。そして過越の小羊であるイエス様がいつも共におられるのが教会です。ではそのイエス様につり合う教会とは、どんな教会でしょうか。教会のあるべき姿、それはパン種を入れないパンでいることです。8 節にあるように、「**パン種の入らない、純粋で真実なパン**」でいることです。「**悪意と不正のパン種**」を取り除くことです。つまり、教会から重大な罪を取り除き、教会全体に罪が蔓延すること、教会が腐敗することを防ぎ、教会の純潔を守ること、聖くあることです。

### おわりに

教会は、罪に無関心でいたり、見て見ぬふりをしていてはいけません。罪の力は、私たちが思う以上に強く、パン種のようにあつという間に教会全体を腐敗させていくのです。

教会だけでなく、私たちひとりひとりの信仰生活も同じです。私たちも、自分の罪に無関心でいたり、見て見ぬふりをしていてはいけません。パン種のように、あつという間に私たちの生活全体を腐敗させていきます。

私たちの罪のために過越の小羊となって十字架に架かり、血を流してくださいましたイエス様の前に、教会や私たちひとりひとりは、どのような歩みをするべきでしょうか。それは、パン種を入れないパンで、純粋で真実なパンで歩むことです。つまり罪と向き合い、純潔を守り、聖さを求めていくことです。

先週の礼拝から、「罪の告白」と「赦しの確証」を礼拝のプログラムに入れました。私たちは、毎日罪を告白し、悔い改めることが大切ですが、特に毎週の礼拝において、神様の前に罪を告白し、その罪を悔い改め、その罪がイエス様への信仰によって赦されていることを確信して生きることが大切です。罪悪感や罪責感を抱えながら生きるのではなく、赦された平安と喜びをもって生きることが大切です。その平安と喜びこそ、罪と向き合う力を、罪と戦う力を与えてくれるはずです。

聖書は私たちに語りかけています。「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての惡から私たちをきよめてくださいます」(ヨハネ 1:9)。「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの靈的な礼拝です。この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一心によって自分を変えなさい」(ローマ 12:1-2)。